

## 相談フロー事例 NO.1

### お困り内容

1. 学校で書いてくる連絡帳の字が、何て書いてあるか分からない
2. 音読が逐次読みで、内容が頭に入らない
3. ひらがなもカタカナも何度練習しても書けない
4. 口答指示を覚えていない

小1 夏休み  
担任と面談

・学級担任から「発達が気になるのであれば市の発達検査受けられますよ」と教えてもらい、何をしても上手くいってなかったので、出来ることが分かるかも知れるなら受けたいと思いその場でお願いした。

小1 10月  
市で発達検査

・市の発達検査でIQに問題がないことは分かったが、その後も困り感は何も変わらないので余計に不安が高まった。

小2 6月  
CASE  
Japanに相談

・CASEの提案を喜んで受け入れる息子の笑顔と、私自身何をすれば良いか具体的に分かり不安からやっと少し抜け出せた。

小2 7月  
担任と面談

・CASEが、今まで見た様子からみえる特性や経過観察のポイント等をまとめて資料を作って来て下さったおかげで、学級担任は個別の指導計画の参考になり、私は不安な面談時に専門家に同席していただけ安心した。

小2 9月  
病院受診

・医師からの診断を受ける。

小3 7月  
市で発達検査

・市の発達検査より、「視機能のトレーニングも有効かもしれないので、医療機関で精検してみることも一案と思われる。」と助言をいただき、CASEに更に相談した。

小3 9月  
かわばた眼科受診

• かわばた眼科で、「字の練習をしても手の筋トレにしかならない」と言われ、繰り返しの練習を安心してやめられた。

小3  
指導課に  
相談

• 指導課には、かわばた眼科を受診した結果もあり、通級指導教室へ通いたい旨を相談。審査通過後、通級開始。

小4 3月  
学校と面談

• 通常級での合理的配慮で、iPadの使用許可をお願いする。その場で了解を得て、次年度から使用開始。

小5  
各方面に  
相談

• 通級指導教室が合わなくなり、各方面に相談をし休むことで様子を見る。

小6 5月  
中学へ相談

• 小6、5月卒業を控えて、入学予定の中学校へ小学校で受けている内容の合理的配慮継続のお願い。

小6  
通級再開

• 5年の時に休んでいた通級指導教室を再通級開始。